

題名：TOYOPA から始まる豊田の未来！

高校名：愛知県立松平高等学校

メンバー氏名：炭屋美香（3年）、嶺澤那岬（3年）

政策の趣旨：

豊田市外への消費の流出を防ぎ、市外県外の人々の豊田市内での消費を促すために、私たちは、TOYOPA の設立を提案します。これにより経済循環の流れを太くし、生産の現場において新しい価値を生み出すことを可能にします。

本文：

私たちの暮らす豊田市は、自動車産業を中心とする第二次産業が盛んな市として有名であり、私たち市民もこの街の産業を誇りに思っています。そこで、この街の誇りを継続的なものとし、更なる発展につなげるために、私たちは現在の豊田市の経済循環に着目し、一つの提言をさせて頂くことにしました。

豊田市の2010年民間消費額は、総額1兆5696億円に対し、4618億円が市外に流出しています。私たちは、この「①市外への流出を止めること」、また「②市外県外の人々の豊田市内での消費を促すこと」が、豊田市の課題であると考えました。豊田市の民間消費額を上げることが、支出による生産への還流につながり、生産の現場における新しい価値の創造につながると考えました。

①について、まず、どのようなものを市外に買いに行くのか、クラスメイトへのインタビュー調査を行いました。その結果、生鮮食品や日用雑貨品、電化製品や書籍、化粧・医薬品は市内での購入が多い反面、洋服や靴、贈答品は市外での購入が多いという結果が得られました。次に、市外のどこを訪れるのかをRESASを使い調査しました。その結果、豊田市民の休日滞在先は、上位から岡崎市、みよし市、安城市、刈谷市、知立市、日進市、瀬戸市、名古屋市緑区ということがわかりました。これらの地域には、大型ショッピング施設などがあり、豊田市民がこれらのショッピング施設を利用し、洋服や靴、贈答品を購入しているのではないかと考えました。これらの結果から、市外への流出を止めるために、

大型ショッピング施設をつくることを考えました。

②については、まず、市外から豊田市に訪れる人の滞在先を RESAS で調べました。その結果、市外から訪れる人の休日滞在先は、上位から豊田スタジアム、旭高原元気村、鞍ヶ池公園、トヨタ会館、香嵐溪ということがわかりました。この結果から、「豊田市には観光地が少ないのではないか」、「豊田スタジアムや旭高原に訪れる人がいても、消費行動につながっていないのではないか」、と思いました。今、世間ではInstagramなど、インターネットでの写真投稿が流行っており、インパクトのある名所が訪問者を集めています。市外県外の人が訪れたいと思う場所の設立、また、また、訪れて頂いた際の消費を促すために、豊田グルメ、豊田土産も必要だと考えました。

以上から、豊田市外への消費の流出を防ぎ、市外県外の人々の豊田市内での消費を促すために、私たちは、TOYOPA（とよば）の設立を提案します。TOYOPA というネーミングは、「トヨタパーク」と「豊田でパリピ（パーティーピーポー）」をかけたことに由来します。TOYOPA は、車をモチーフにしたパークとショッピングセンターと豊田グルメの複合施設です。駅前の再開発に加え、このTOYOPA をつくることで、市民は市外に買い物にでかける必要がなくなり、市外県外の集客が見込めます。2019年ラグビーワールドカップの開催に合わせスタジアムへの経由地としてもアピールできます。TOYOPA によって、豊田市の民間消費額が増加し、支出による生産への還流につながります。これにより経済循環の流れが太くなり、生産の現場において新しい価値を生み出すことが可能となると考えます。